



家屋保險法草案

改正

十一

大藏省火
災保險取
調掛之印

32
8



414
A3617
11



第一條

中央家屋保險局ヲ置キ家屋保險ノ事ヲ統轄セ
シム

該局ノ組織ハ追テ職制章程ヲ以テ之ヲ定ム

但保險諸支廳ノ組織ニ右職制ニ於テ之ヲ定

ムルカ故ニ此條例ニハ唯保險局ト書シ別ニ

區別ヲナサス

第二條

家屋保險局ハ左ノ災害ヲ保險ス

大
義
自

大
大
正
十
一
年
四
月
贈

(甲) 出火、爆発及々消防ニ由テ生スル損害(火災
保険)

(乙) 洪水、暴風雨、落雷、地震、燻火、土崩及々雪崩(天
災保険)

落雷、地震及々燻火ニ因テ生スル火害ハ其火元
タルト類焼タルトニ拘ラズ然テ天災ヲ以テ處
分スルモノトス

但戦争又ハ一揆等ニ由テ生スル火災ニ損害
ハ之ヲ保険セス

火災保険ハ此條例ニ於テ保険部外トシ又ハ所

有主ノ情願ニ據テ保険スル家屋及々附属具ヲ
除ク外然ラ之ヲ受クベキ義務アルモノトシ天
災保険ハ家屋所有主ノ情願ニ據テ行フモノト
ス

第三條

保険局ハ家屋所有主ヲシテ年々一定ノ賦金ヲ
納メシメ其保険シタル損害ニ會シテ定規ノ補
助金ヲ貸與スベシ

第四條

凡ソ既成ノ家屋ハ皇族、官府、町村又ハ私人ノ所

有タルニ論ナク其種類及之用方ノ如何ニ関セ
ス地方保険局ヨリ布達次第保険ヲ受クヘキ義
務アルモノトス

第五條

皇居、離宮其他皇室所屬ノ家屋ハ特ニ宮内省ヨ
リ請求スルニ非ザレハ保險セザルモノトス
其他神社佛閣ニ情願ノモノニ限り保險スベシ
但神官僧侶ノ家屋ハ保險ヲ受クヘキ義務ア
ルモノトス

第六條

保險部外トシテ保險スヘカラサル家屋左ノ如
シ

- (一) 外國人所有ノ家屋
- (二) 家屋中保險ヲ受クヘキ部分ノ内未タ落
成ニ至ラサル所アルモノ及ヒ破壊廢類
ノ家屋
- (三) 一時ノ使用ニ供スル家屋及ヒ小屋掛
- (四) 建設運搬自由ナル建物(切組建物、箱番所
並巡查分遣所等
- (五) 保險價格拾圓ニ滿ナル家屋

(六) 門、塙、塙及び家屋外ニ在ル井戸、井戸小屋
但家屋内ニアル井戸側及び長屋門ハ
此限ニ非ス

(七) 借家人其他所有主外ノモノニ於テ設営
セル増築又ハ造作

第七條

其他保險部外ノ家屋九ノ如シ
人口二万以上ノ市街ニ於テ

- (一) 全部藁葺又ハ板葺ノ家屋
- (二) 一部藁葺ノ家屋

(三) 瓦石金屬葺等堅牢ノ屋根ニシテ三分一
以上ノ板葺ヲ混スル家屋

人口二千五百以上二万以下ノ市街ニ於テ

- (一) 全部又ハ一部藁葺ノ家屋

但茅葺ハ藁葺ト同視シ樹皮葺ハ板葺
ト同視スベシ

第八條

殊ニ火災又ハ爆発ニ危険ナル装置ヲナス家屋
又ハ危険物ノ營業若クハ製造ヲナシ又ハ之ヲ
貯蔵スル家屋並同所有主ニ屬スル隣接ノ家屋

(一棟又ハ數棟)ハ全ク保險ヲ行ハザルカ又ハ其
所有主ニ於テ保險局ヨリ要求スル豫防方法ヲ
施設シ又ハ堅牢ノ築造ヲナスマテ保險ヲ見合
ス₁アルベシ
右種類ノ家屋ニシテ既ニ保險ヲ受タルモノナ
レバ保險局ハ全ク保險ヲ解除スル₁ヲ得ベシ
(第五十一條)

第九條

保險局ヨリ保險スベキ旨ヲ達シ又ハ第五條第
一及ヒ第二節ニ從テ保險ヲ請求スル家屋ハ九

ノ制規ニ據リ保險スルモノトス

(甲)凡ソ家屋ノ本建ヲ毀損セシテ容易ニ運

搬スルヲ得ルモノ即チ疊、建具、階子、雨樋ノ

類其他土蔵ノ上ハ屋并土蔵ノ藪(板等ヲ以

テ上面ヲ蔽ヒタルモノ)底ハ保險セサルモノ

トス

但シ土造及ヒ塗屋ノ戸ニシテ火災防禦

ノ為メニ用ユルモノハ保險スベシ

(乙)家屋所有主ノ請求ニ從テ保險スルモノ九

ノ如シ

(一) 家屋ニ附着セル金屬具、金銀泥及ヒ箔類

(二) 家屋ニ附着セル書画、錦繡、珠玉、彫鏤ノ類

(三) 高價ノ造作ニシテ地方定價表外ノ價位ヲ有スルモノ

(四) 家屋ニ固着シ容易ニ運搬スルヲ得サ
ル器械、家具類

但右種類ニ付テハ保險局ハ其見込ニ依リ保險ヲ許サ、ル一アルベシ

(丙) 全ク石又ハ煉瓦等ノ不燃物ヲ以テ造營シタル家屋ノ周壁ハ家屋所有主ノ請求ニ因テ保險部外トナスヲ得ベシ

但其間木材ヲ混スルモノハ此限ニ非ス

(丁) 右(甲)(乙)(丙)ニ於テ定ムル家屋ノ部分ヲ除クノ外ハ總テ保險ヲ受クヘキ義務ヲルモノトス

第十條

凡テ内國人ノ所有ニ屬シ保險施行ノ區内ニア
ル家屋ハ如何ノ場合ニ於テモ外國ノ保險ヲ受

ルヲ得サルモノトス

第十一條

若し前條ノ禁令ニ違背スル者アリテ發覺スル
キハ燒失前ナレハ保險金五分ノ一ニ當ル罰金
ヲ課シ燒失後ナレハ保險局ヨリ與フベキ保險
金ハ勿論他ノ保險社ヨリ受ヘキ保險金ヲモ没
收ス可シ
右没収スベキ保險金ハ所有主既ニ之ヲ費耗シ
現存セラルキハ現時若クハ後來ノ所有財産ヨ
リ追徴スベキモノトス

但没収シタル金額ハ保險局ノ所有ニ歸スル
モノトス

第十二條

現時他ノ保險會社ノ保險ヲ受タルモノハ其府
縣ニ保險局ヲ設置シタル後三十日間ニ保險ヲ
受タル者保險ノ金高及ヒ約定期限ノ期限ヲ保險局
ニ届出シ然レキハ約定期限中ハ之ヲ差許ス
モノトス

第十三條

凡ソ家屋ハ保險局ヨリ保險証ヲ交附スル時ヨ

リシテ保險ノ効カラ有スルモノトス

第十四條

保險ヲナス前豫メ家屋ノ保險價格ヲ評定スベシ

右評價ハ火災又ハ天災ノ保險ニ於テ更ニ差別ヲナサバシムモノトス

凡ソ家屋評價ニ際シ其賣買價及ヒ建地ノ價格ハ勿論位置ノ善惡、家賃ノ高下又ハ家屋ニ屬スル權理義務等ハ算定上ニ於テ更ニ顧慮セサルモノニシテ唯タ建家ノ材料及ヒ工料ニ止マリ

之ヲ鑒定シ然ル後諸材ノ衰替ヲ見計リ其減價ヲ除算シ定ムルモノトス

又保險價格ハ地方定價表ニ照準シテ家屋ノ實價ヨリハ低價ニ定ムルモノトス且ツ造作等ノ地方定價表外ノ價格ヲ有スルモノ(第九條(七)ニ此ニ準ス

但評價ニ係ル細目ハ評價規則ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條

保險賦金ハ家屋ノ保險價格ノ外左ノ三項ニ掲

クル火災危険ノ度ニ從テ其割合ヲ定ム

(甲) 家屋建造ノ性質

(乙) 保險區人口ノ多寡

(丙) 家屋平常ノ用方

第十六條

家屋建造ノ性質ハ左ノ表ニ從テ六級ニ分ツ

屋 根	周圍ノ壁	石、煉瓦及土造	塗屋造(漆喰等ヲ以テ全ク塗詰メタル家屋)	其他尋常ノ周壁
	瓦、金屬、石、石盤、砂入柄紙葺	第一級	第二級	第三級
	板葺樹皮葺	第三級	第四級	第五級
葺茅葺	第四級	第五級	第六級	

右表中ニ掲ケサル屋根又ハ周壁ヲ用フル家屋アル片ハ臨時保險局ニ於テ其等級ヲ定ムベシ凡ソ屋根又ハ周壁ハ二種及ヒ三種ノ混淆ニナル片ハ其種中最危ノ等級ニ屬スベシ譬へハ屋根ノ一部ハ瓦ニシテ一部ハ板ナレハ板屋根ニ屬シ又周壁ノ一部ハ煉瓦ニシテ一部ハ板ナレハ板屋根ニ屬スル等ノ如シ

家屋若シ他ノ家屋ト其構造ヲ連結シ兩屋ノ間可燃質ノ壁ヲ以テ分隔スルカ或ハ屋根又ハ其他相連結スル部分ニ於テ火災延焼ノ患アルモ

ノハ一家屋ト見做スベシ然レニ土造煉瓦造ノ如キ第一級家屋ニシテ他ノ家屋ト相連結スルモ其周圍ノ構造火災ノ延焼ヲ防クニ足ルモノハ別ニ其等級ヲ定ム可燃質ヲ以テ構造シタル庇又ハ雪隠ハ本家(第一級ノ家屋ヲ除ク)ト其構造ヲ連結シ且ツ之ト屋根及ヒ周壁ノ種類ヲ異ニスルモ然ラ本家ノ等級ニ屬スルモノニシテ之ニ據リ本家ノ等級ヲ變セス然レニ其連結スル本家ハ第一級ノ家屋ナルハ特ニ一等ヲ下スモノトス

但土造ノ上ハ家並土造ノ葺庇ハ保險部外ナルヲ以テ更ニ土造ノ等級ニ關係ヲ有セサルモノトス

第十七條

地方人口ノ多寡ニ從ヒ保險區ヲ九ノ九級ニ分

甲區	人口	二千五百人マテ
乙區	全	二千五百一人ヨリ五千一人マテ
丙區	全	五千一人ヨリ一万人マテ
丁區	全	一万人ヨリ二十万人マテ

戊區 今 二万一人ヨリ四万人マテ

己區 今 四万一人ヨリ八万人マテ

庚區 今 八万一人以上

庚區

辛區

壬區

東京区内各部

両箇以上ノ市街又ハ村落相接近シ其間一丁以上ノ空地ヲ以テ降絶セサルモノハ其名稱ノ異ナルニ拘ハラズ一ノ保險區トシ其人口ニ從テ前表ニ照準シ相當ノ等級ヲ定ムベシ然レトモ

特ニ東京区内ニ限リ其間一丁以上ノ空地ヲモノト雖モ之ヲ三分シテ別ニ等級ヲ定ムルモノトス

保險區人口ノ數(本籍寄留ノ別ナク)ハ保險局ニ於テ臨時ノ人口調査表ニ從テ之ヲ定ム但シ後日人口ノ増減ヲ生スルニ方リ其保險區ノ等級ヲ昇降スルトセザルトハ全ク保險局ノ權内ニアルモノトス

第十八條

火災保險賦金ハ百田ニ付毎六ヶ月九ノ割合ヲ

以テ徴收ス

家屋等級	保險區	
	甲	乙
第一級	四七五	二〇
第二級	二〇	三五
第三級	二二五	四〇
第四級	三五	四五
第五級	二七五	五〇
第六級	四〇	五五
	丙	丁
	四七五	五五
	二二五	三五
	四五	四五
	六二五	六五
	五五	七五
	八七	一
	四七五	八五
	二二五	九五
	四五	一〇五
	六五	一二五
	八五	一三七五
	四五	二一五
	七〇	九二五
	四七五	一三七五

第十九條

學校、病院、其他慈惠ノ為メ設置スル建物ハ前表ノ割合ヨリ特ニ割ヲ減スベシ
殊ニ火災及ヒ暴発ニ危険ナル装置ヲ為シ、右類

ノ物品ヲ貯藏シ、製造シ、營業スル家屋並同所有主ニ屬スル隣接ノ家屋（一棟又ハ數棟）ヲ保險スル時ハ別ニ増賦金ヲ納メシムルヲアルベシ
右類ノ家屋ハ所有主ノ都合ニ依リ保險ノ解除ヲ請求スルヲ得ベシ
但此場合ニ於テハ第二十八條第二節ノ手續ニ據ルモノトス

第二十條

保險賦金ノ徴收ハ年ニ兩度ト定メ一月一日ヨリ十五日マテ並七月一日ヨリ十五日マテノ内

大蔵省

ニ於テ六ヶ月分ノ全額ヲ領收証書ニ引換前納
セシム

但十二月又ハ六月ニ於テ新ニ保險ヲ受タル
モノハ其年ニ限り二月一日ヨリ十五日マテ
並八月一日ヨリ十五日マテノ内ニ於テ納附
スベシ

第二十一條

新ニ保險ヲ受タル家屋ノ賦金ハ其月ヨリ初ノ
上納期月ニ至ルマデノ分ヲ左表ノ割合ニ從ヒ
納メシムルモノトス

保險ヲ受
タリ期月

一月二月三月 四月 五月 七月八月九月 十月十一月

初ノ上納期月
至テノ賦金高

三月分四月分五月分 六月分 七月分 八月分 九月分 十月分 十一月分

右賦金ヲ
納ムル期日

四月一日ヨリ十五日迄ノ内 七月一日ヨリ十五日迄ノ内 十月一日ヨリ十五日迄ノ内 一月一日ヨリ十五日迄ノ内

六月及ヒ十二月ニ於テ保險ヲ受タルモノハ右
初度ノ賦金ヲ納ムルヲ要セス
初度ノ賦金ハ一ヶ月ニ付半年分賦金ノ五分ノ
一ニ當ル割合トス

第二十二條

保險ヲ受タル家屋所有主若シ上納期月十五日
マテニ於テ賦金ヲ上納セサルハ其際損害ヲ

受ルモ保險補助金ヲ得ル能ハサルモノトス
臨時ノ事情ニヨリ保險局ヨリ賦金ノ延納ヲ許
ス場合ニ於テ其期限中ニ損害ヲ受ルルハ保險
補助金半額ヲ貸與スルモノトス
家屋所有主如シ延納免許ヲ得スシテ定期内ニ
賦金ヲ上納セサルハ保險局ヨリ其滞納金額
ヲ右期月ノ三十一日マテニ上納スベキ旨ヲ督
促シ如シ期月ヲ超テ尚ホ命ヲ奉セサルハ其
家屋ヲ公賣ニ附スベシ
但督促ニ用ユル郵書又ハ使丁ノ費用ハ滞納

人ヲシテ辨償セシムベシ

第二十三條

保險ヲ受タル家屋所有主自カラ其家屋ニ住居
セス又ハ之ヲ使用セス且永ク其地方ニ在ラザ
ルハ代理人一名ヲ置クベシ若シ然ラザルハ
ハ保險局ハ其借家人ヲ以テ代理人ト見做シ賦
金ヲ徴収スベシ此場合ニ於テハ借家人ハ家賃
ノ中ヨリ賦金ヲ差引キ保險局ヨリ交付セラレ
タル賦金領収証ヲ所有主ニ渡スベシ若シ又借
家人存在セサルカ或ハ家賃ヲ以テ賦金ヲ拂フ

ニ足ラサルキハ保險局ハ其家屋ヲ差押ユルモ
ノトス

第二十四條

家屋若シ數名ノ共有物ナルキハ所有主一同連
帶シテ其賦金ヲ負擔スベシ

第二十五條

保險賦金ハ家屋所有主ノ身代限處分ヲ受ルニ
方リテ先取權ヲ有スルモノトス尤モ其順序ハ
國稅及ニ地方稅ノ次タルベシ

又家屋代理人(第二十三條)ニシテ保險賦金ヲ立

替ヘタルモノハ其金額ニ限り亦同一ノ先取權
ヲ有スルモノトス

第二十六條

天災保險賦金ハ每半年百圓ニ付五錢トシ又始
メ該保險ヲ受タル月ヨリ初ノ上納期月ニ至ル
マテノ初度ノ賦金ハ百圓ニ付月一錢ノ割合ヲ
以テ細メシム

但右初度ノ賦金ハ火災保險賦金上納ノ際共
ニ納ムルモノトス

第二十七條

家屋所有主ニ於テ天災保險賦金ヲ納附セサル
片ハ保險ノ効力消滅スルモノトシ督促又ハ公
賣等ノ處分ヲナサスト雖モ唯初度ノ賦金ヲ納
附セサルモノニ限り火災保險ニ於ルカ如ク督
促又ハ公賣處分ヲ行ベシ

第二十八條

家屋所有主ハ二回以上ノ賦金ヲ上納シタル後
ハ其望ニヨリ保險價格ノ半額ヲ以テ保險ヲ受
ルコトヲ得ベシ尤モ此場合ニ於テハ保險補助金
モ亦半額ノ割合ヲ以テ貸與スルモノトス

右半額ノ保險ヲ請求マント欲スルモノハ賦金
上納ノ際(一月七月)豫メ其旨ヲ届出ヘシ然ル片
ハ保險局ハ次ノ上納期月ヨリシテ改正ヲ為ス
モノトス
然レモ右請求者既ニ其家屋ヲ抵當トセシ片ハ
必ス先ツ債主ノ承諾ヲ得ヘク若シ承諾ヲ得サ
ルモノハ保險價格全額百分ノ五ニ當ル罰金ニ
處スニシ
又天災保險ヲ受タル家屋所有主ニシテ右半額
ノ保險ヲ請求スルモノハ唯火災ノミニ付之ヲ

請求スルヲ得ス

但手数料トシテ保険價格金額分ノ火災保險賦金(第二十一條)一ヶ月分ニ當ル金額ヲ納メシム

第二十九條

半額ノ保險ヲ受タル者若シ再々金額ニ復セン
トテ望ムキハ前條半額ノ請求ニ於ル如ク賦金
上納ノ際豫メ其旨ヲ届出次ノ上納期月ヨリ改
正ヲ受ヘキモノトス

又天災保險ヲ受タル家屋所有主ニシテ金額ニ

復セントテ請求スルモノハ唯火災ノミニ就テ
請求スルヲ得ス

但手数料ハ保險價格半額分ノ火災保險賦金
一ヶ月分ニ當ル金額ヲ納メシム

第三十條

家屋所有主ハ損害ヲ受タル時ニ於テ左ノ制規
ニ從テ保險局ニ届出ベシ

(甲)ニ晝夜間内ニ損害及ヒ其原由(自己又ハ他
人ノ家屋ニ起ル火災爆発及ヒ消防ノ為メ
ニ生スル傷損又ハ洪水、暴風雨、地震、噴火、土

崩雪崩(殘物)ノ有無ヲ口陳又ハ書上ニテ其
區戸長ニ届出ベシ

(乙) 四晝夜間内ニ於テ保險証ノ番号及ビ損害
ヲ免レタル部分ヲ明細ニ届出ベシ尤モ自
己ノ家屋ニ起ル火災又ハ爆発ニシテ上(甲)
ノ届出ニ於テ洩レタル事件アレハ此際再
應詳細ニ届出ベシ

但若シ止ムヲ得サル故障アリテ實際届
出ヲ為ス能ハサル場合ニ於テハ右故障
ノ消滅セル時ヨリ其期限ヲ算スルモノ

ノトス

第三十一條

家屋ノ損害ハ若シ家屋所有主又ハ其家族ノ故
意ニ出ルカ或ハ其助力、同意、教唆ヲ以テ他人ヲ
シテ之ヲ為サシムルニ係ル片ハ保險補助金ヲ
貸與セザルモノトシ又右損害ハ其甚シキ過失
怠慢ニ出ル片ハ臨時ノ事情ニ從テ或ハ補助金
ノ一部ヲ貸與シ或ハ全ク之ヲ貸與セサルモノ
トス尤以上ノ所為ハ保險補助金ヲ貸與シタル
後ニ於テ發覺スル時ハ保險局ハ直ニ其金額ヲ

返附セシムヘキ権理アルモノトス

第三十二條

家屋所有主ハ保險局ノ制規ニ於テ届出ヘキ事
件ヲ隱秘シ又ハ虛妄ノ届出ヲ為スルハ此ニ因
テ保險補助金ヲ請求スル権理ヲ失フモノトス
尤保險局ハ臨時ノ事情ヲ酌量シテ尚ホ保險補
助金ヲ貸與スルコトアリト雖モ其取捨ハ全ク同
局ノ見込ニ在リトス

右隱秘シ又ハ虛妄ノ所為ハ保險補助金ヲ貸與
セル後ニ發覺セルキハ保險局ハ其金額ヲ返償

セシムル權アリトス

第三十三條

保險補助金ノ額ヲ定ムルカ為メ損害ノ大小ヲ
評定スベシ

損害ノ評價ハ其家屋ノ保險價ニ基テ算定スル
モノニシテ修繕又ハ再築ノ費用且ツ該災ニ由
テ生スル財産ノ諸損害等ニハ更ニ顧慮セザル
モノトス
損害ハ之ヲ全部損害及ヒ一部損害ノ二種ニ分
ツ

(甲) 保険ヲ受タル家屋ノ部分盡ク損害ニ罹リ
更ニ残餘ナキ時

(乙) 損害ヲ免レタル部分アルモ其総價ハ地方
定價表ニ從テ僅ニ保險補助金百分ノ五(半
額保險ナレバ二分五厘)ニ越ヘサルモ之
ヲ全部損害トシ其他ハ凡テ一部損害ト視
做スベキモノトス

損害評價ニ就テハ損害ヲ受タル家屋ニ付全部
又ハ一部ノ損害ナルカヲ評定スベク且ツ家屋
ノ各部分ニ就テモ全部、四分ノ三、三分ノ二又ハ

二分ノ一ナルカ又ハ三分ノ一、四分ノ一、十分ノ
一又ハ十分ノ一ナルカヲ鑒定スベシ
右ニ掲ケタル割合ノ外ハ評定セザルモノトシ
若シ損害ノ價格ハ例ハ三分ノ一ト四分ノ一
トノ間ニ在テ何レニ當ルヘキヤヲ判シ難キ時
ハ少數ノ割合即チ四分ノ一ト定ムベシ然レモ
十分ノ一以下ノ損害ナルモハ地方定價表ニ
從テ之ヲ修繕スヘキ費用ヲ算定スルモノトス

第三十四條

保険証ヲ交附シタル時ヨリ五年ヲ経タル後

二損害ヲ受タル家屋ハ復タ前ノ價位ヲ有セサルモノトシ其減價トシテ一ケ年百分ノ二ノ割合ヲ以テ評價額ヲ減スベシ故ニ所有主ヨリ少クモ右減價ニ相当スル金額ヲ修繕ニ費用セシ旨ヲ証明セサルキハ保險補助金ヨリ右金額ヲ差引クモノトス
 尤右修繕ニ使用セシ金高ハ損害ヲ受タル部分又ハ全家屋ニ付キ之ヲ証明スルモ所有主ノ随意タルニシ
 但保險局ハ上ノ制規ニ據リ評價額ノ減スル

氏ハ其割合ヲ以テ亦賦金ヲ返附スヘシ

第三十五條

自己ノ家屋ニ起ル火災及々爆発ニシテ保險局ハ其理由ニ就テ不明ト視認ルモノニ限り補助金ヲ與ヘスシテ自ラ修繕又ハ再築スルコトアルベシ
 右修繕又ハ再築ノ費用ハ保險補助金ト視做シ保險局ニ於テ盡クシテ負擔スト雖モ何レノ場合ニ於テモ保險補助金ヲ超過セシメザルモノトス

但此場合ヲ除ク外ハ常ニ現金ヲ以テ下附ス
ルモノトス

第三十六條

負債ノ抵当トナリタル家屋ニシテ全部損害ヲ
受タル時ハ保險局ハ其負債ノ金高マテハ債主
ヲ家屋所有主ト視做シ第三十八條ノ制規ニ從
テ右金高マテノ保險補助金ヲ貸與スベシ尤敷
人ノ債主アル片ハ負債ノ先後ニ從テ順次ニ貸
與スルモノトス

但右金高ヲ下渡シ尚ハ残余アル時ハ之ヲ家

屋所有主ニ下渡スベシ

右保險補助金ハ第三十八條ノ制規ニ從テ債主
ニ於テ其返納ヲ負擔スルモノトス故ニ負債主
ハ債主ニ對シ右金高中十五ヶ年分ノ年賦金高
ハ既ニ償却シタルモノトシ残十ヶ年分ハ尚ハ
辨償スルキモノトス
負債ノ抵当トナシタル家屋ニシテ一部損害ヲ
受タル片ハ其所有主ニ於テ保險補助金ヲ修繕
ノ費用ニ供スル時ニ限リ該主ニ之ヲ貸與シ修
繕ノ費用ニ供マサル時ハ第三十八條ノ制規ニ

從テ債主ニ貸與スベシ此場合ニ於テハ前節ノ如ク負債主ハ債主ニ對シテ右金高中十五ヶ年分ノ年賦金高ハ已ニ償却シタルモノトシ残十ヶ年分ハ尚ホ辦償スベキモノトス

第三十七條

第三十七條ニ從テ債主ニ貸與スベキ保險補助金ハ若シ家屋所有主ニ於テ第三十條乃至第三十二條ノ制規ニ違背シ該金請求ノ権理ヲ失フ^ハ在ラモ之ヲ貸與スベシ尤第三十一條ニ謂ル損害ノ原由ニ就テ債主モ其罪ニ與カル^ハ

ハ此限ニ非ス

此他家屋所有主ニ於テ保險賦金ヲ上納セサルカ為メ保險補助金請求ノ権理ヲ失フ時(第二十二條)モ亦保險局ハ該金ヲ債主ニ貸與スト雖モ此際債主ヨリ右滯納賦金ヲ辦納セシムルモノニシテ若シ其旨ヲ達シタル後十日内ニ上納セサル^ハ債主モ亦右補助金請求ノ権理ヲ失フモノトス

第三十八條

保險補助金ハ保險局ヨリ之ヲ受領スベキ権理

アルモノニ無利息ニテ貸與シ元金百分ノ四ノ
年賦高ヲ以テ二十五年間ニ償還セシムルモノ
トス

此年賦金ヲ停滯ナク上納セシムル為メ九ノ種
類及ヒ割合ノ抵当ヲ出サシム

第一 地面

右ハ保險補助金ノ五割ニ當ル金高ヲ出サ
シム

第二 公債証書及ヒ保險局ヨリ發行スル公

債証書

右ハ其利子ヲ以テ年賦金ヲ償フニ足ルタ
ケノ金額ヲ出サシム

右抵当ハ二種ヲ合セテ差出スルヲ得ベシ

又抵当金高ノ割合ニヨリテハ前以テ年賦金ノ
一部ヲ第四十七條ノ返納金計算表ニ從テ現金
ニテ一時ニ返納スルヲ得ベシ

受領者若シ抵当ヲ納メサル時ハ之ヲ納ムルマ
テ保險補助金ヲ下附セサルモノトス

年賦金ハ地面ノ抵当ナレハ一ヶ年四度ニ割合
ヒ三ヶ月毎ニ上納セシメ公債証書及ヒ保險局

公債証書ナレハ利子下渡ノ節保險局自ラ之ヲ
受領スベシ

年賦金皆濟シ上ハ抵當ヲ返附スベシ

第三十九條

地面抵當ハ左ノ制規ニ從フモノトス

第一 書入証書ニス可シ

第二 既ニ他ニ抵當トナリタルモノハ書入

ルヲ得ヌ又地券面金高以上ニ抵當ト
ナスヲ得ス

第三 保險局管轄ノ地方ニ在ル地所タルニ

シ

若シ保險局ニ於テ右地面ハ地券面タ

ケノ價格ナキモノト視ルハ保險局

ノ鑒定ニ從ハシムルヲアルベシ

第四十條

前條ニ掲クル土地ノ抵當ハ保險補助金抵當ト

稱シ帳簿ニ記録ス可シ

受領者若シ年賦金ヲ納メサルカ又ハ其他ノ事

由ニ因テ身代限ノ處分ヲ受ルハ第四十七條

返納金計美表ノ割合ニ據リ年賦金未納高ニ限

り徴收スベシ

第四十一條

保險補助金ハ拾圓以下ナル時ハ抵当ヲ差出ス
ヲ要セス且償還ノ義務ナキモノトシテ唯々其
中ヨリ四割タケテ差引キ下附スルモノトス又
右補助金ハ第三十六條ノ制規ニ從テ債主ニ下
附スル片ハ負債主ハ債主ニ對シテ其中六割ハ
償却シタル高トシ残四割ハ尚ホ辨償スヘキ高
トス

第四十二條

抵当ニ差出スヘキ地券、公債証書及ヒ保險局公
債証書ノ金高ノ割合ニ於テ第三十九條ノ抵当
高ニ恰當セシムル能ハス随テ幾分カノ不足ヲ
生スル片ハ此不足分ノ四割ニ當ル金高ヲ保險
補助金ヨリ差引キ前以テ償還セシムルモノト
ス

但第三十六條ノ制規ニ從テ保險補助金ヲ債
主ニ貸與スル片ハ右不足分ノ四割ヲ差引カ
ル金高ヲ以テ負債主ヨリ償却セラルモノト視
做スベシ

第四十三條

受領者ハ抵當トシテ保險局ニ差出スヘキ地券、公債証書及ヒ保險局公債証書ヲ購求シ又ハ再築ニ供スル木石及ヒ工事ヲ請負ハシムルニ方リ其受領スヘキ補助金ヲ以テ之ヲ支拂ハンテヲ約定シ該金受取手形又ハ其旨ヲ記シタル約定書ヲ賣主又ハ請負人ニ渡ストテ得ベシ然レハ右手形及ヒ約定書ハ豫メ保險補助金ヲ下渡スベキ廳局ニ就テ其証認ヲ受クベキモノトシ賣主又ハ請負人ヨリ補助金受取方申出ル片ハ

右手形又ハ約定書ノ文面ニ從ヒ其金額ヲ手形又ハ約定書ヲ換ヘテ直ニ持參人ニ下渡し又ハ双方立合ノ上下渡スモノトス然レハ請負人ニ於テ其約定ヲ履行セザレハ因リ裁判上右金額ヲ得ヘキ権理ナキ旨ノ宣告ヲ受タル片ハ保險局ハ直ニ受領者ニ下渡スベシ

第四十四條

百圓以上ノ保險補助金ヲ受領シタル者ニシテ後三ヶ年内ニ該金ヲ以テ家屋ヲ再築シ又ハ既成ノ家屋ヲ購求シ其旨ヲ届出ルモノニ限り後

十ヶ年間ニ再々損害ヲ受ルニ際シテ尤ノ特權ヲ與フベシ

右損害ニ付貸與スベキ補助金ハ前ニ貸與セル第一回補助金ヨリ少キ片ハ其中ニ割テ差引キ残額ハ割テ給與シ抵當及ヒ返納ヲ要セス又是ニ反シテ其貸與スヘキ補助金ハ第一回補助金ヨリ多キ片ハ右金額ヨリ第一回補助金ヲ引去リタル残高ト第一回補助金高ノ八割ニ當ル金額トヲ合テ下渡スベシ然ル片ハ右残高ハ第三十八條ニ從ヒ抵當及ヒ返納ヲ要スベシト雖モ

第一回補助金ノ八割ニ當ル金高ハ全ク償還義務ナキモノトス

第三回又ハ第四回ノ損害ニ於テモ之ニ準ス

第四十五條

保險局ニ抵當トナル公債証券又ハ保險局公債証券ハ政府又ハ保險局ヨリ之ヲ支消セルカ又ハ負債者ノ都合ニ因テ其更換ヲ請求スルニ方リ之カ為メ差出シタル抵當ハ其金高ノ割合ニ於テ前抵當高ト恰當ヤシムルヲ得ヌ幾分カノ不足ヲ生スル片ハ此不足分ハ第四十七條ノ

返納金計算表ニ從テ現金ニテ一時ニ償却セシ
ムルモノトス

第四十六條

既ニ四十期以上ノ年賦金ヲ上納シタルモノニ
シテ其都合ニヨリ保險補助金ヲ一時ニ償却セ
ンテヲ請求スルハ第四十七條返納金計算表
ノ割合ヲ以テ差許スベシ

但請求者ハ三ヶ月前豫ノ具旨ヲ届出ヘキモ
ノトス

第四十七條

年賦金ハ第三十八條ニ從テ去ケ年四期(毎三ヶ
月)ニ割合ヒ二十五年間即チ百期ニ上納セシム
ルカ故ニ百田ノ保險補助金ニ就テハ一期毎ニ
一田ヲ納ムル割合ナリトス

左ノ返納金計算表ハ補助金高百田ニ付算定ス
ルモノニシテ第一欄内ニ於テハ尚ホ上納スベ
キ期數及ヒ金高ヲ示シ第二欄内ニ於テハ一時
ニ該金額ヲ返納スヘキ割合ヲ示スモノトス

大蔵省

第四十八條

保險ヲ受タル家屋ハ左ニ掲クル変更ヲ生スルニ
際シテ保險局ニ届出ベシ

第一

(甲) 保險價格ヲ失又ハ変更スル時(例ハ
全家屋又ハ其一部ヲ毀解スル等)

(乙) 一時保險價格ヲ減スル時(例ハ修繕模
様替等ノ為メ保險ヲ受タル部分ヲ一時
解離スル等)但新旧差替ヲナスノミニテ
直ニ工事ヲ終ルヘキ場合ニ於テハ届出

七六	七七	七八	七八	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一
四三	四三	四四	四四	四四	四五	四五	四五	四五	四五	四六	四六	四六	四六	四七	四七
四六	七五	〇三	三一	五九	八六	一二	三九	六四	九〇	一五	三九	六四	八八	一一	三四
二	一	六	六	一	二	九	一	九	三	三	九	二	〇	四	五
五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六
三四	三四	三五	三五	三六	三六	三七	三七	三七	三八	三八	三八	三九	三九	三九	四〇
四九	九二	三五	七六	一八	五八	九八	三七	七六	一四	五一	九八	二四	七〇	九五	三〇
二	四	〇	八	〇	六	五	七	四	四	八	六	八	五	六	〇
二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一
二一	二一	二二	二二	二三	二四	二四	二五	二五	二六	二七	二七	二八	二八	二九	二九
〇六	七一	三五	九七	五九	二〇	七九	三八	九六	五三	〇九	六四	一八	七一	二四	七六
九	六	二	九	六	二	九	七	五	四	三	四	六	九	四	一
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	九	一〇	一一	一二	一三	一三
九八	九五	九〇	八四	七六	六七	五六	四四	三一	一六	九	八二	六三	四三	二一	九九
四	二	五	三	五	三	六	五	〇	一	九	三	四	二	七	〇

ニ及ハス

(丙) 家屋ノ全部若クハ一部自然ニ破壊スル時

(丁) 火災又ハ爆発ノ危険ヲ生スル時(例ハ新ニ火災又ハ爆発ニ危険ナル物品ヲ製造シ貯蔵シ又ハ営業スルガ為)

(戊) 家屋ノ等級減下スル時(例ハ屋根又ハ周壁ヲ以前ヨリ粗悪ニ造営シ又ハ是迄ノ家屋ヨリ下等ノ増築(第十六條ヲナス等)

右(甲)(乙)(丁)及ヒ(戊)ノ場合ニ於テハ遅クモ変更ニ着手スル前日マデニ其旨ヲ届出ヘク又(丙)ノ場合ニ於テハ破壊後五日内ニ其旨ヲ届出ベシ但(丙)ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル故障アルモノハ第三十條但書ノ定規ニ據ル

右(甲)(乙)(丙)ノ場合ニ於テハ直ニ保険ヲ解除シ且其家屋ハ抵當トナリタルモノナレハ債主ニ其旨ヲ通知スベシ
若シ右(甲)(乙)(丙)ノ場合ニ於テ其中変更マサル部分存在シ是迄ノ保険價格ニ基キ容易ニ分離ス

ルヲ得ル時ハ成ルベク速ニ右部分ヲ保險シ
 更ニ保險証ヲ交附スベシ
 又其家屋ハ抵当トナリタルモノナレバ保險局
 ヨリ債主ニ其旨ヲ通知ス可シ
 (丁)及ヒ(戊)ノ場合ニ於テハ可成ク速ニ保險ヲ改
 正シ新保險証ヲ交附スベシ
 但旧保險証ノ効力ハ新保險証交附ノ時ヲ以
 テ消滅スルモノトス

第二

(甲)保險價格ヲ増加スル時(例ハ増築修繕

屋根ノ葺替又ハ造作ノ設置等)

(乙)火災又ハ爆発ノ危険ヲ減スル時(例ハ
 防火壁等ヲ設置シ、火災又ハ爆発ニ危険
 ナル貯蔵物ヲ他ニ運搬シ又ハ其營業ヲ
 廃スル等)

(丙)家屋等級ヲ改良スル時(例ハ粗悪ナル
 屋根ヲ堅牢ナル屋根ニ葺替ヘ又ハ粗悪
 ナル家屋ノ部分(第十六條)ヲ解離スル等)
 右(甲)(乙)及ヒ(丙)ノ場合ニ於テハ家屋所有主ヨリ
 届出ノ上成ルベク速ニ保險ヲ改正シ更ニ新保

險証ヲ交附スベシ

但舊保險証ノ効力ハ新保險証交附ノ時ヲ以テ消滅スルモノトス

第四十九條

若シ家屋所有主ニ於テ第四十八條第一(甲)(乙)(丙)(丁)(戊)及ヒ第二(甲)ノ届出ヲ怠リ後日發覺スル時ハ保險局ハ臨時ノ事情ニ從ヒ罰金トシテ半年分ノ火災保險賦金ニ當ル金額ヲ徴収シ又右違反ヲ隱秘シ損害ヲ受タル後ニ發覺スル時ハ保險補助金ヲ與ヘス若シ補助金ヲ下附シタル後

ニ發覺スル片ハ該金額ヲ返附セシムルコトアルベシ

第五十條

保險証ノ効力ハ保險補助金ヲ下渡スル時ヲ以テ消滅スルモノトス

第五十一條

保險局ハ何時ニテモ其保險シタル家屋ヲ検査シ且検査ノ模様ニヨリ要用ト認ムル片ハ其家屋ノ保險ヲ中止スル權アリ
又戦争一揆等ニ際シテ保險局ハ要用ト認ル片ハ

其地方ニ在ル家屋ノ保險ヲ解止スルヲフルベシ

第五十二條

凡ソ保險証ノ効力消滅セル時ハ全部損害ニ因
テ保險補助金ヲ貸與セル場合ノ外ハ保險局ヨ
リ現時ノ家屋所有主ニ次ノ一月又ハ七月ニ於
テ前ニ上納シタル半年分若クハ初度ノ賦金ヲ
左表ノ割合ヲ以テ返附スベシ

保險証ノ効力

次ノ七月(一月)ニ於テ

消滅シタル月

返附スベキ割合

一月(七月)

半年分ノ賦金五分ノ四

二月(八月)

全

五分ノ三

三月(九月)

全

五分ノ二

四月(十月)

全

五分ノ一

五月(十一月)

皆無

六月(十二月)

第五十三條

此條例ニ掲グル手数料ノ外尚ホ他ノ手数料ヲ
納メシムル場合ニ於テハ別ニ其規則ヲ定メ公
布スベシ

第五十四條

大蔵省

保險諸廳局及ヒ其官吏ノ指揮又ハ處分ニ對シ
不服ナル者ハ其長局ニ伺出ラ尚ホ不服ナレハ
復々其上列ノ長局ニ伺出ベシ
右伺出ノ期限ハ其指揮處分又ハ裁決ヲ受タル
日ヨリ起算シテ十四日間トス
同事件ニ付二回以上伺出ルヲ得ス
納附金ハ假令ヒ伺出中ト雖モ其徴収ヲ猶豫セ
サルモノトス

第五十五條

(甲) 保險賦金(初度ノ賦金トモ)ヲ納附スベキ義

務ノ有無

(乙) 家屋所有主トシテ保險補助金ヲ受領シ得

ヘキ權利ノ有無

(丙) 家屋ノ債主トシテ保險補助金ヲ受領シ得

ヘキ權利ノ有無

(丁) 此條例ノ制規ニ據テ保險局ヨリ保險補助

金ヲ貸與セラルヲ得ヘキ權利ノ有無

右四項ノ事件ニ付テ保險諸廳局及ヒ其官吏ノ
指揮又ハ處分ニ不服ナル者ハ第五十四條ノ手
續ヲ以テ其長局ニ伺出尚ホ不服ナレハ上等裁

判所ニ告訴スルヲ得ベシ

此場合ニ於テハ該長局ノ裁決ヲ受ケル日ヨリ
三十日間内ニ訴状ヲ上等裁判所ニ差出スベシ

第五十六條

第五十五條ノ事件ヲ除ク外總テ保險事務ニ係
ル訴願ハ保險局ニ於テ終審ヲ遂ケ裁判所ニ告
訴スルヲ許サス

